

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名	神崎市立千代田中部小学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	・学校目標達成に向けて校務分掌や学級経営においてそれぞれが役割を果たすとともに、連携・協力しながら職責を果たすことができおり、ほとんどの項目がA評価であった。 ・教員から認められていると感じている児童は9割を超えているが、「自分のことが好き」と回答した児童は8割に満たなかった。人権感覚、主体性を育む取組を充実させながら、自己肯定感や自己有用感、他者を尊重する態度を育み、一人一人が自信をもって学校生活を送れるようにする。 ・ICT活用については、校内研究を通していろいろな教科で効果的な活用方法を探り、実践を積み重ね、情報の共有化も少しずつ進んできた。来年度も研究、実践を継続していく。 ・教職員それぞれが職責を果たせるよう、業務改善の視点を大切にしながら、健康的で働きやすい職場環境の整備に努める。
------------------	---

2 学校教育目標	「賢く 優しく 逞しく」自分で考え行動できる児童の育成
----------	-----------------------------

3 本年度の重点目標	1 学力向上（ICT活用教育の充実／思考力・判断力・表現力の育成／家庭学習の充実） 2 児童の自己有用感や規範意識の醸成 3 特別支援教育の視点に立つ教育の推進 4 勤務時間の縮減に繋がる業務効率化・適正化、組織体制の工夫
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○表現力(アウトプット)を柱とした学力向上のための授業改善・環境改善	○学習状況に関するアンケートにおいて、「授業がよく分かる」「自分の考えを伝えている」「話を最後まで聞いている」と回答した児童85%以上	・校内研で様々な教科の授業を参観することにより、教師の授業力の質を向上させる。 ・教育活動の様々な場面で考えを伝え合う場を設定する。 ・スキルタイムを共通実践し、音読や語学力・計算力の定着を図る。	B	・校内研の指導案検討や授業参観を通して、教師のタブレットPCの活用スキルを向上させることができている。 ・スキルタイムを継続して行うことができているが、形骸化しないように教師側が意識することが課題である。 ・児童が自分の意見を伝えるための指標(伝え方ピラミッドなど)やモデルを提示していくことが必要である。	A	「児童アンケートにおいて、「授業がよく分かる」「自分の考えを伝えている」「話を最後まで聞いている」と回答した児童はすべて90%以上であった。 ・毎日の授業や校内研究で積極的にタブレットPCを活用し、児童のスキルが向上した。教師も新たな活用法を探り、様々な事例を学校全体で蓄積、共有することができた。 ・スキルタイムを継続した行ったことにより、基本的な計算力が身に付いている。	A	・人の話を最後まで聞き、授業もよく分かっている。 ・アウトプットが苦手というデータが出ているが、発表の場面を数多く経験すれば慣れにくると思われる。 ・スキルタイムの効果があると思う。	
	○学習規律を整え、家庭学習の充実を図る。	○学習道具の準備、自主性、集中力、宿題提出の項目で達成率80%以上	・ぐんぐん週間の実施。 ・家庭学習の内容を精査し、児童が意欲をもって自主的に取り組めるようにする。	A	・月1回のぐんぐん週間(家庭学習強化週間)が児童や保護者に習慣化し、取組への意識も高まっている。家庭学習にタブレットを活用するなど、宿題の内容を工夫することにより、ほとんどの児童が宿題を忘れることなく提出できている。	A	・ぐんぐん週間の評価結果によると、学習用具の準備や集中力、進んで学習している児童は全体の80%を超えている。また宿題の提出率もよい。 ・発達の段階に応じて宿題の出し方を工夫し、家庭での丸付けや確認も適宜行うことで、児童・保護者ともに家庭学習への意識の高まりが見られる。家庭での読書習慣を付けることが今後の課題である。	A	・宿題提出も80%以上で、家庭学習も充実している様に見える。ただ、宿題もテストもあり親には見せない。 ・ぐんぐん週間の期間を把握していない家庭もある	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動することなど、豊かな心を身に付ける教育活動	○思いやりや道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童85%以上	・児童に道徳に関するアンケートを行う。 ・平和に関する集会や、人権に関するな かよし集会の企画・実施。 ・保護者が参画したふれあい道徳を実施。	A	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒85%以上で成果指標を上回った。 ・9月に「平和集会」、11月末に「なかよし集会」や「ぼかぼかの木」の取組を実施し、平和や人権に関する意識向上を図った。 ・授業参観で全学年ふれあい道徳を実施することができている。	A	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒85%以上で成果指標を上回った。 ・11月のなかよし集会を実施すると共に、ぼかぼかの木を全校児童で制作し人権に関する意識の醸成を図ることができました。 ・全学年でのふれあい道徳の実施ができた。6年生においては、ゲストティーチャーを招いて命について考えることもできた。	A	・様々な取組をしていただきありがとうございます。 ・学校の取組としては、現状でよいと思う。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等について、組織的対応ができていると回答した教員85%以上	・心のアンケートを実施し、事後対応や指導を適切に行うよう働きかける。 ・いじめの認知・認知に対する対応マニュアルの周知を図る。 ・いじめ防止に関して、生徒指導、教育相談や各連絡会を関連付けて実施する。	A	・毎月心のアンケートを実施し、児童の心の実態把握を適切に行うよう働きかけている。 ・管理職、担任、SCとの連携を図り、いじめの認知や早期対応、事後対応に努めている。職員の組織的な対応に関する肯定的な回答100%。 ・毎月の生徒指導、SCによる教育相談、学期ごとの配慮を要する児童の共通理解を行い、いじめ防止を行っている。	A	・毎月心のアンケートを実施し、児童の心の実態把握を適切に行うように働きかけ、早期対応を行った。また、全クラスでSCによる心の授業を行い、児童の意識を高めることができた。 ・管理職、担任、SCとの連携を図り、いじめの認知や早期対応、事後対応に努めている。職員の組織的な対応に関する肯定的な回答100%。 ・毎月の生徒指導、SCによる教育相談、学期ごとの配慮を要する児童の共通理解を行い、いじめ防止を行っている。	A	・スマホを持つことによって今後いじめに発展しないよう注意しなければならないと思う。 ・子供たちのことを第一に考え行動してくださることに感謝している。	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれて」と回答した児童80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・各学級で教師が行っている児童のよさを認める取り組みを紹介し共有する。 ・授業や行事の中で児童に多くの出番や役割を与えて賞賛し振り返り価値づけを行うことで、次の活動への意欲や自分の生活・生き方への意欲をもたせるようにする。	B	・授業や行事の中で児童に多くの役割を与え、称賛している。委員会活動や行事等に意欲的に取り組む姿が見られる。 ・児童の意欲を高めるために、学級でうまくいった取り組みや授業方法を情報交換している。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれて」と回答した児童96%で目標を達成している。 ・将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童79%	A	・委員会活動や学校行事の中で、それぞれの学年や委員会の児童が自主的にまた、意欲的に活動する姿が見られた。また、教師もそれを認め、褒めることができた。 ・教師間で情報交換したことを、それぞれのクラスや委員会実践し、児童の意欲を高めることができた。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれて」と回答した児童89.6%で目標を達成している。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85.7%で目標を達成している。	A	・委員会活動、縦割り活動などもすばらしい活動だと思ふ。 ・児童の自主的な活動や地域と連携した活動などで子供たちの活躍の場があり、児童の豊かな心の成長につながっていると思う。	
●健康・体づくり	○「望ましい生活習慣の形成」 ○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○生活習慣に関するアンケートで肯定的な回答をした児童80%以上 ○「健康に良い食事をしている」児童90%以上	・望ましい生活習慣について、多角的な視点から保健指導等の実施や保健だよりを発行し、児童・保護者への啓発を図る。 ・食育授業や給食時間の指導を行い、望ましい食習慣の定着を図る。また、食育だよりを発行し、保護者への啓発と家庭での協力を得る。	A	・視力や睡眠や運動に関わりのある姿勢について、正しい姿勢の大切さを全学年に保健指導を行った。発達段階に合わせて伝え方・資料を変えたことで理解を深めた。 ・担任や養護教諭と協力して、全学年に食育授業や給食指導を行っている。児童の食に対する意識が高まり、自分の健康や成長のためにバランス良く食べようとする姿が見られるようになった。給食の残食も減少傾向にある。 ・保健・衛生・生活習慣に関する肯定的な回答80%以上。	A	・望ましい生活習慣について、あらゆる機会で保健指導や広報活動を実施した。生活習慣が乱れている児童は少なく、その原因は早寝ができていないことが多かった。おおむね80%以上望ましい生活習慣ができている。 ・食育の授業、給食時間の食育指導を担当と栄養教諭が連携して行った。児童の食に対する意識が高まり、苦手な食べ物にも意欲的に挑戦する姿が全校で見られるようになった。給食の残食も、昨年度平均5.3%から今年度は2.2%に減少した。	A	・小学生・中学生のヘルメット着用率は高く、「かぶらなければいけない」と認識しているようだ。 ・道幅が狭いところが多いので、車道などはなるべく通らせないようにしている。 ・交通ルール違反(飛び出し、逆走)など危険な場面を見かけたら注意している。	
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○避難訓練(風水害、不審者対応、地震・火災)や交通安全教室の計画的な実施。 ○自転車のヘルメット着用率95%	・交通安全教室を行い、正しい判断のもとに安全に行動できるようにする。 ・年間3回の避難訓練(風水害・不審者・地震・火災)を実施し、緊急時の心構えや安全な避難の仕方を理解させる。 ・パソコンによる業務管理の徹底 ・定時退勤日の設定 ・時間外勤務時間のフィードバックによる個々人の業務改善の推進 ・業務分担、計画的な業務推進等による年休取得率アップ	A	・登下校中の事故や自転車での事故など現在0。 ・自転車のヘルメット着用率98% ・これまでに風水害、不審者対応、地震火災の避難訓練を実施し、児童に危険、災害時の行動について考えさせる機会をもった。	A	・年間を通して、登下校中の事故や自転車での事故などが0だった。 ・自転車のヘルメット着用率98% ・1年間を通じて、風水害、不審者対応、地震火災の避難訓練を実施し、児童がハザードマップや避難について関心をもち、危険や災害時の行動について考えるようになった。	A	・AEDの使い方を児童に教えることができるとよいと思う。 ・災害に関する訓練が計画的に行われているのでよい。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・パソコンによる業務管理の徹底 ・定時退勤日の設定 ・時間外勤務時間のフィードバックによる個々人の業務改善の推進 ・業務分担、計画的な業務推進等による年休取得率アップ	B	・業務内容の見直しを進めながら効率よく計画的に業務に取り組むことができていた。職員の間外勤務の月平均は30時間程度である。 ・夏季休業中の行事の見直し、職員の年休取得は増えつつある。 ・定時退勤日は金曜日に設定しているが、まだ浸透していない面があるので今後取組を強化していく。	A	・教職員アンケートの結果「見通しをもち計画的に業務に取り組むなど、タイムマネジメントを意識した働き方を心がけている」と回答した教職員は95%近くであった。 ・退勤時間を意識しながら業務に取り組むための、職員の時間外勤務が減り、月平均は30時間未満となった。 ・年休や休暇の取りやすい雰囲気と環境づくりによって、年休や休暇の取得率が上がっている。	A	・地域の行事など学校外の活動にも参加していただき感謝している。 ・職員の年休取得は授業に支障のない範囲で取るようにさせてほしい。職員の時間外勤務の月平均30時間がもっと減らせたらよい。	
●特別支援教育の充実	○個々が大切にされる学校風土の醸成	○毎月の生徒指導連絡会や研修の実施 ○保護者アンケートにて「個々に寄り添う丁寧な対応」への肯定的な回答80%以上。	・教職員がもつ個々の課題に対応する校内研修を特別支援教育Coが希望する方向に月に2回、全職員に対してはより高い専門性を持った外部講師を招へいしての研修を年に2回実施する。 ・毎月の連絡会で、気になる児童の情報交換を行う。	A	・課題に対応する校内研修会を月に2回以上、外部講師招聘をの研修会を1回、STによる研修を2回実施し、本校の実態にあった研修会を行うことができた。気になる児童の情報交換は毎月の連絡会に加え、日々相談できる校内支援体制が整っており、早期対応することができている。 ・保護者の相談や連絡に丁寧に応じていることに関し、保護者の肯定的な回答は100%であった。	A	・年間を通して、毎週木曜日の研修会、本校の課題にあった研修会を年4回行うことができ、職員の意識や専門性の向上を図ることができた。また、校内支援体制を整えたことで管理職を含めたチームとして早期対応をすることができた。毎月の連絡会でも情報交換を行うことができた。 ・保護者の相談や連絡に丁寧に応じていることに関し、保護者の肯定的なアンケートが98.6%であった。	A	・保護者アンケートのコメント欄から、学校と保護者と子供、三者がうまくいっていることがうかがえるが、コメントに出てこない問題ある子供、悩みのある保護者など数人はいると思われる。そういう子供や保護者にも常に目を向けてほしい。	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○タブレットを活用した学習活動の充実	○各教科でタブレットを積極的に使用する	○タブレットPC使用のアンケートで週3時間程度使用したと答えた割合が85%以上。	・校内研究でタブレットPCの活用法について研修を行う。全ての学年においてタブレットPCを活用し効果的な取り組み実践を紹介し、情報を共有していく。	B	・夏季休業ではタブレット端末を用いた校内研修を実施し、授業での活用につながっている。また、校内研究においてもすべての学級でICT機器を活用して学習の成果につながっている。 ・タブレットPC使用のアンケートで週3時間程度授業に使用したと答えた割合は52%で今後取組を強化していく。	A	・全ての学年においてタブレットを活用した学習を行うことができた。また、効果的な取り組みの実践を表にまとめ全職員で情報を共有することができた。 ・数値目標には達していなかったが、タブレットPC使用のアンケートで週3時間程度授業に使用したと答えた割合は75%で前回と比べると大幅に上った。	A	・宿題でリコーダーを吹く姿をタブレットで動画を撮り、メールで送るのを見て感心した。今後是非活用していただきたい。 ・すべての学年で効果的な取組を実施し、学習の成果につながっているようで、今後も取組を強化してほしい。しかし、現場の先生たちの研修が大家のように感じる。目標値の設定については、より妥当性のある目標値を検討するといふ。	
○保護者・地域との連携	○開かれた学校の推進	○保護者アンケートにて学校や学級の情報発信について肯定的回答80%以上。	・学校HPを週2回以上更新し、学校の様子を家庭や地域に発信していく。	A	・学級便り等で学校の様子を伝えている職員は94%。保護者アンケートで学校が情報発信をしていることに関する肯定的な意見100%。 ・学校HPは、週2回以上更新して、学校の様子を発信した。	A	・学校HPを定期的に更新することができた。児童の自主的な活動や地域と連携した活動などを意識的に掲載した。 ・学級便りで学校の様子を伝えている職員は88%、学校が情報発信をしていることに肯定的な意見は99%であった。	A	・週2回以上HPを更新していいのは大変だと思うが、子供たちの様子や行事等が分かるのはありがたい。学校の様子を知ることが安心できる。続けてほしい。 ・学校HPの閲覧状況を調査し、閲覧率が上がるよう方策を練るべきである。	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学校目標達成に向けて校務分掌や学級経営においてそれぞれが役割を果たすとともに、連携・協力しながら職責を果たすことができおり、すべての項目がA評価で終えることができた。 ・学力に関しては、県平均、市内平均と同等以上の力が身に付いているが、学力を支える力(粘り強さ、忍耐力、丁寧さなど)を更に強化し、社会の中で生き抜く力を身に付けさせていく。 ・「自分のことが好き」と回答した児童は8割近くまで増えているので、役割と出番を与えて承認・称賛しながら、自己肯定感や自己有用感、他者を尊重する態度を育み、一人一人が自信をもって学校生活を送れるようにする。 ・ICT活用については、校内研究を通していろいろな教科で効果的な活用方法を探り、実践を積み重ね、情報の共有も高まっている。来年度も更に研究を深め、実践を重ねていく。 ・教職員それぞれが働きがいを感じながら職責を果たせるよう、業務改善の視点を大切にしながら、心身共に健康で働きやすい職場環境の整備に努める。
----------------	---